

令和7年度

富士市立富士南小学校 グランドデザイン

《職員の心構え》

- ・働き方への見つけ直し
- ・子供、保護者との良好な関係づくり

学校教育目標 「やさしく いきる」

重点目標 「やってみよう！」

キーワード「たよっていいよ」「仲間づくり」

《地域・保護者の願い》

- 子供が何でも話せる安心して過ごせる学校
- 挨拶ができ、相手を思いやれる子
- 地域に根差した子

仲間と学ぶ（知）

- ・「あたたかい聴き方のスキル表」の活用
- ・「やってみよう」を引き出す単元構想
- ・相手意識・目的意識をもった学習
- 【授業が分かる 93%】
- 【目、耳、心で聴く 95%】

仲間と活動する（徳）

- ・自分の目標や人のために自ら行動する姿
- ・心をつなぐ挨拶
- ・仲間を認め合う言葉遣い
- 【学校が楽しい93%】
- 【心をつなぐ挨拶90%】
- 【敬称を付ける89%】
- 【ほかほか言葉を遣う90%】
- ※三校道徳科重点内容項目

仲間と育む（体）

- ・継続な記録を残す
- ・心の健康に目を向けた指導の継続
- ・児童の実態を踏まえたけがの予防指導と環境整備
- 【体育時に自分の活動を振り返っている 90%】
- 【友達のよいところを見付けている 95%】
- 【よいところがある 85%】
- 【安全に気を付けている 95%】

研修テーマ「学び合い 考え 表現する子」～「やってみよう」を引き出すしかけ～

南小の目指す子供像

- ・自分事として捉える子・自ら一歩ふみ出す子・自分の思いを言葉で伝える子

南中校区の目指す子供像

- ・互いの違いを受け入れながら、よりよい方向へ踏み出すことができる子
- ・他者との温かな関わりを意識した挨拶のできる子
(おはよう こんにちは さようなら ありがとう ごめんなさい。)
- ・自ら、健康的で規則正しい生活ができる子

富士南中学区 小中一貫教育ビジョン全面实施

コミュニティ・スクール ～地域とともにある学校～

- ・学校運営協議会と子供と連携した挨拶運動等
- ・地域の力を取り入れた学習(防災等)
- ・コミュニティ・スクールディレクターを中心とした地域学習

・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育プラザ、子ども家庭課、放課後デイ等との連携・「こども基本法」「富士市子どもの権利条例」に則った子供への関わり
○危機管理意識が根底にある対応（未然防止と初期対応）○不祥事根絶への取組（風通しのよい職場づくり、相談しやすい管理職）

□分かりやすく利便性のある便りの発行（紙と電子）
□学校ホームページでの発信 □授業参観、学級懇談会、保護者面談 □参加しやすい PTA 活動(子供の安全確保への取組み奉仕作業古紙回収等) □地域の方々との挨拶運動 □地域活動の広報
☆事務職員の教室訪問(挨拶と担任との情報交換) ☆保護者、地域に寄り添った窓口 ☆校納金一括徴収の浸透

《学校経営目標》挨拶がいっぱい 笑顔もいっぱいの学校

-子供に寄り添い 支える チーム南小-

<PDCA サイクルの充実>

<全体>学校評価(子供、教職員 7,11 月、保護者 11 月) 教職員人事評価「自己目標シート」の数値設定

学年経営案 学校保健経営案 事務室経営案 学校運営協議会振り返り

<各学級> 生活アンケート(年3回) ストレスチェック(5, 6学年)

「学校教育目標」と「令和7年度重点目標」に向けて

小中一貫学校教育目標

「やさしく いきる」

重点目標

－ やってみよう！ －

豊かな人間性

- ・自分事と捉え、見通しをもって努力する。
- ・（努力し）自分を向上させる。
- ・温かな関わりを意識した挨拶ができる。

健康・体力

- ・授業や保健的活動の記録の積み重ね
- ・心の健康づくり
- ・安全で清潔な環境づくり

資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- 自分事として物事を捉え、見通しをもって活動する。（居場所づくり）
- 自分から仲間と関わる。（絆づくり）
- 自分の思いを相手のことを考えて言葉で伝える。（自己決定）

何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

- 学習計画を立て、見通しをもって粘り強く取り組んでいる。
- 仲間と自分から関わり、自分の思いや考えを深めている。
- 相手意識、目的意識をもって自分の思いや考えを言葉で伝えている。

子供の实態

- 見通し・目的があると頑張れる○素直で優しい○相手意識をもって行動できる●チャレンジ精神が乏しい●自分で判断することが苦手●コミュニケーションを取ることが苦手

子供の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・子供の背景、特性を正しく理解する。
- ・一人一人と共感的に関わり、信頼関係を築く。
- ・その子に合った手立てにより、負担を減らす。
- ・思いをもって始めたことを認める。

目指す子供の姿

- 自分事として捉える子
- 自ら一歩ふみ出す子
- 自分の思いを言葉で伝える子

何を学ぶか

○教育課程の編成

- ・幼少の接続や小中一貫教育における義務教育9年間の系統性を意識した学び
- ・教科・領域間の横断的なつながりを踏まえた学び

どのように学ぶか

○教育課程の実施

- ・自分から伝え、仲間と学び合い、表現する（研修）
- ・自分事として話し合い、支え合って活動する（特活）
- ・自己の学びを授業や活動の記録を基に振り返り、次につなげる（体育）

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- ・一人一人の子に「寄り添い支える」教職員集団
- ・家庭、地域にとって、相談しやすい教職員集団
- ・教職員の危機管理意識（未然防止と初期対応）の向上

安心・安全を守る

- ・教職員による避難体制、防犯体制、自己体制の強化・確認。
- ・子供の交通事故や火災・地震等に対する危機管理意識を高める。

開かれた学校づくり

- ・学校運営協議会と連携した「地域とともにある学校づくり」の推進。
- ・PDCAサイクルの確立と積極的な発信。